

6 一般医療と老人医療別にみた診療行為の状況

1件当たり点数は、一般医療 1,334.0 点、老人医療 1,808.0 点となっている。

1日当たり点数は、一般医療 600.4 点、老人医療 711.4 点で、年齢階級別にみると、「80 歳以上」783.8 点が最も高く、次いで「70～79 歳」674.5 点となっており、「0～14 歳」458.5 点が最も低くなっている。診療行為別の構成割合をみると、老人医療は、一般医療と比べて「歯冠修復及び欠損補綴」の割合が多く、「処置」「初・再診」の割合が少なくなっている。

1件当たり日数は、一般医療 2.22 日、老人医療 2.54 日となっている。(表9、図8)

表9 一般医療 - 老人医療 - 年齢階級別にみた診療行為別1件当たり点数、1日当たり点数、1件当たり日数

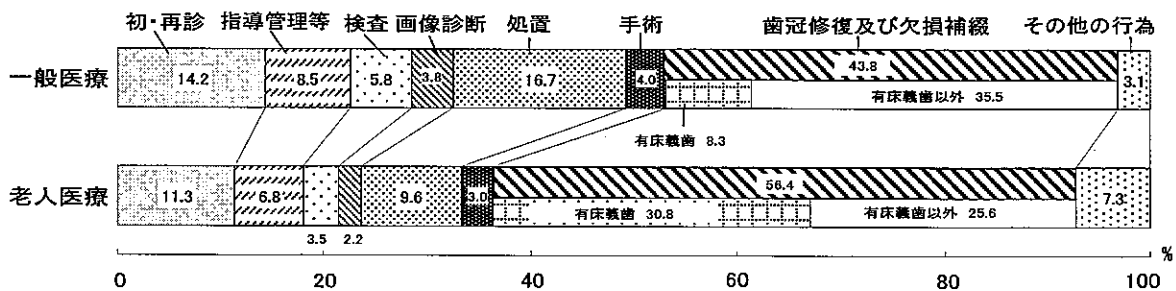
(平成16年6月審査分)

診療行為	一般医療	老人医療	年齢階級				
			0～14歳	15～39歳	40～69歳	70～79歳	80歳以上
1 件 当 た り 点 数							
総初指	1 334.0	1 808.0	794.8	1 349.7	1 441.9	1 747.3	1 938.3
・再	190.0	203.5	211.8	185.8	187.2	198.3	206.7
導 管 理	113.4	123.1	68.4	126.3	118.3	124.3	110.0
在宅 医	2.2	81.3	-	1.5	4.0	32.2	174.5
検査	78.0	62.6	15.9	96.9	83.9	66.6	56.7
画像 診	51.4	39.6	25.0	69.1	48.7	43.9	34.0
断 薬	26.1	29.4	9.2	28.8	29.0	29.9	25.7
注 射	1.1	2.5	0.1	1.0	1.3	1.7	4.1
リハビリテーショ	0.2	0.2	0.7	0.1	0.1	0.1	0.3
処 置	222.8	172.9	112.2	260.7	232.2	182.9	153.1
手 術	53.0	54.7	24.3	52.8	60.2	59.0	42.0
麻 酔	3.6	2.1	2.9	5.0	3.1	2.2	1.6
放 射 線 治	0.2	0.6	-	0.1	0.2	0.6	0.6
歯冠修復及び欠損補綴	584.6	1 019.7	318.3	509.1	668.5	993.2	1 105.3
歯科矯正等	2.1	-	3.2	5.6	0.0	0.4	-
入院料等	5.4	16.0	2.6	7.0	5.2	12.1	23.7
1 日 当 た り 点 数							
総初指	600.4	711.4	458.5	611.6	619.1	674.5	783.8
・再	85.5	80.0	122.2	84.2	80.4	76.6	83.6
導 管 理	51.0	48.4	39.5	57.3	50.8	48.0	44.5
在宅 医	1.0	32.0	-	0.7	1.7	12.4	70.6
検査	35.1	24.6	9.2	43.9	36.0	25.7	22.9
画像 診	23.1	15.6	14.4	31.3	20.9	16.9	13.8
断 薬	11.8	11.6	5.3	13.0	12.5	11.5	10.4
注 射	0.5	1.0	0.1	0.4	0.6	0.7	1.6
リハビリテーショ	0.1	0.1	0.4	0.1	0.0	0.0	0.1
処 置	100.3	68.0	64.8	118.1	99.7	70.6	61.9
手 術	23.9	21.5	14.0	23.9	25.9	22.8	17.0
麻 酔	1.6	0.8	1.7	2.3	1.3	0.9	0.6
放 射 線 治	0.1	0.2	-	0.0	0.1	0.2	0.3
歯冠修復及び欠損補綴	263.1	401.2	183.7	230.7	287.0	383.4	446.9
歯科矯正等	0.9	-	1.8	2.5	0.0	0.2	-
入院料等	2.4	6.3	1.5	3.2	2.2	4.7	9.6
1 件 当 た り 日 数							
	2.22	2.54	1.73	2.21	2.33	2.59	2.47

注: 「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。

図8 一般医療 - 老人医療別にみた診療行為別1日当たり点数の構成割合

(平成16年6月審査分)



注: その他の行為は、「在宅医療」「投薬」「注射」「リハビリテーション」「麻酔」「放射線治療」「歯科矯正」及び「入院料等」である。

## 7 傷病分類別にみた1日当たり点数の状況

1日当たり点数は、一般医療では「歯の補綴」904.6点が最も高く、次いで「顎の疾患・口内炎等」831.3点となっており、老人医療では「顎の疾患・口内炎等」849.9点、次いで「むしば」846.7点となっている。(表10)

表10 一般医療 - 老人医療別にみた傷病分類別1日当たり点数

(平成16年6月審査分)

傷病分類	一般医療	老人医療
総数	600.4	711.4
むしば	601.5	846.7
歯髄炎等	579.3	633.5
歯根膜炎等	508.2	592.6
歯周炎等	528.0	540.5
顎の疾患・口内炎等	831.3	849.9
歯の補綴	904.6	846.5
その他の傷病	501.2	441.9

注: 1) 傷病分類は、「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回改正」(ICD-10)を準用した。

2) 「その他の傷病」は、「歯肉炎等」「その他の歯の疾患」「智歯周囲炎等」「褥瘡性潰瘍等」である。

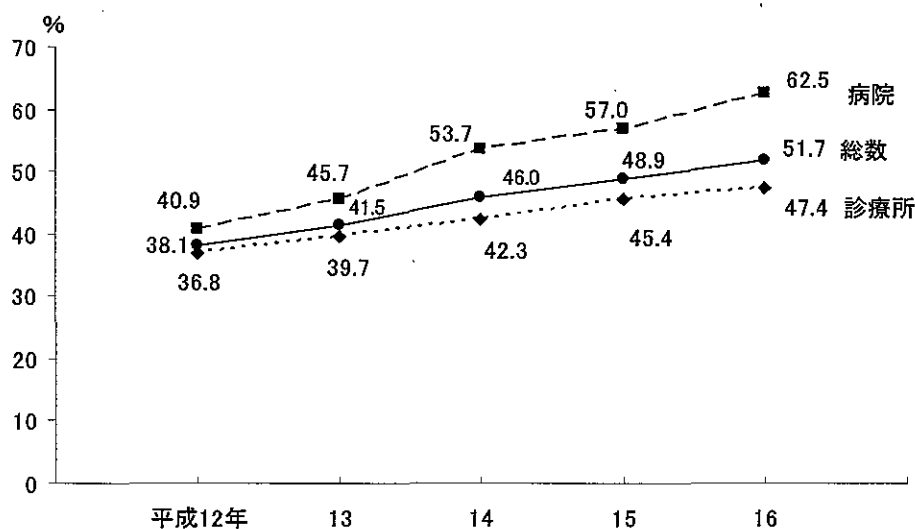
〔院外処方〕

## 8 院外処方率

医科の入院外における院外処方率は、総数で51.7%となっており、前年(48.9%)に比べ2.8ポイント上昇している。これを病院・診療所別にみると、病院62.5%、診療所47.4%と病院の方が高く、前年に比べそれぞれ5.5ポイント、2.0ポイント上昇している。(図9)

図9 病院 - 診療所別にみた医科の院外処方率の年次推移

(各年6月審査分)



注: 院外処方率とは、「処方料」及び「処方せん料」の合計算定回数に対する「処方せん料」算定回数の割合である。

〔薬局調剤〕

9 調剤行為の状況

1件当たり点数は936.9点で、前年に比べ12.1点、1.3%減少している。

処方せんの受付1回当たり点数は649.6点で、前年に比べ32.4点、5.3%増加している。調剤行為別にみると、「薬剤料」460.5点が最も高く、次いで「調剤技術料」150.5点、「指導管理料」37.4点となっている。

1件当たり受付回数は1.44回で、前年に比べ0.10回減少している。

一般医療、老人医療別にみると、1件当たり点数は一般医療805.5点、老人医療1,266.4点、受付1回当たり点数は一般医療580.3点、老人医療802.5点となっており、いずれも老人医療が高くなっている。受付1回当たり点数の調剤行為別の構成割合をみると、一般医療、老人医療ともに「薬剤料」の割合が約7割となっている。

(表11・12、図10)

表11 調剤行為別にみた1件当たり点数、受付1回当たり点数、1件当たり受付回数

調剤行為	1件当たり点数				受付1回当たり点数			
	平成16年	平成15年	対前年比		平成16年	平成15年	対前年比	
			増加点数	増加率(%)			増加点数	増加率(%)
総数	936.9	949.0	△ 12.1	△ 1.3	649.6	617.2	32.4	5.3
調剤技術料	217.1	227.1	△ 10.1	△ 4.4	150.5	147.7	2.8	1.9
指導管理料	54.0	56.6	△ 2.6	△ 4.6	37.4	36.8	0.6	1.7
薬剤料	664.2	664.1	0.1	0.0	460.5	431.9	28.6	6.6
特定保険医療材料料	1.4	1.0	0.4	35.1	1.0	0.7	0.3	44.0
(1件当たり受付回数)	(1.44)	(1.54)						

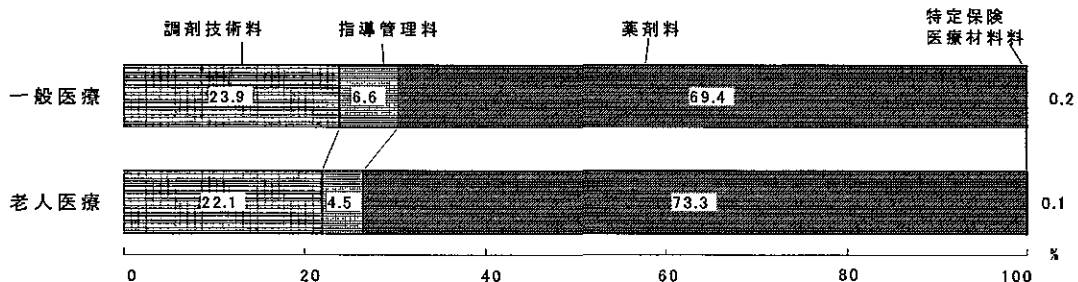
表12 一般医療 - 老人医療 - 年齢階級別にみた調剤行為別1件当たり点数、受付1回当たり点数、1件当たり受付回数

調剤行為	総数	一般医療	老人医療	年齢階級				
				0~14歳	15~39歳	40~69歳	70~79歳	80歳以上
1件当たり点数								
総数	936.9	805.5	1,266.4	489.2	622.1	982.5	1,215.6	1,283.9
調剤技術料	217.1	192.2	279.4	183.6	156.4	207.1	260.4	302.0
指導管理料	54.0	52.8	56.9	61.8	51.0	50.3	55.8	57.5
薬剤料	664.2	558.9	928.2	243.7	414.1	722.5	897.4	923.1
特定保険医療材料料	1.4	1.4	1.3	0.0	0.6	2.5	1.4	0.7
受付1回当たり点数								
総数	649.6	580.3	802.5	320.7	479.5	716.9	799.5	778.8
調剤技術料	150.5	138.5	177.1	120.3	120.5	151.1	171.3	183.2
指導管理料	37.4	38.0	36.0	40.5	39.3	36.7	36.7	34.9
薬剤料	460.5	402.6	588.2	159.8	319.2	527.2	590.2	559.9
特定保険医療材料料	1.0	1.0	0.9	0.0	0.4	1.8	0.9	0.4
1件当たり受付回数								
	1.44	1.39	1.58	1.53	1.30	1.37	1.52	1.65

注: 「総数」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。

図10 一般医療 - 老人医療別にみた調剤行為別受付1回当たり点数の構成割合

(平成16年6月審査分)



## II 薬剤の使用状況

### 〔薬剤料の比率〕

#### 1 薬剤料の比率

医科総点数に占める薬剤料の割合は、総数で21.6%、入院11.3%、入院外33.2%となっており、そのうち、「投薬」「注射」で使用された薬剤料の割合は、それぞれ、19.2%、9.4%、30.2%となっている。

前年と比較すると、総数で0.6ポイント、入院で0.7ポイント、入院外で1.3ポイント下降している。

歯科総点数に占める薬剤料の割合は、総数で1.0%となっている。

薬局調剤総点数に占める薬剤料の割合は、総数で70.9%となっており、前年に比べ、0.9ポイント上昇している。

また、薬局調剤分を医科、歯科それぞれに合算して求めた薬剤料の割合は、医科総数で27.5%、歯科総数で1.2%となっている。(表13)

表13 医科(入院 - 入院外) - 歯科 - 薬局調剤別薬剤料の比率の年次推移

(単位:%)

(各年6月審査分)

		平成12年 (2000)	13 (2001)	14 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	医科-歯科に薬局調剤分 (調剤報酬明細書分)を含めた場合			
							平成14年	15	16	
医 科	総 数									
		薬剤料	22.8	22.5	21.6	22.2	21.6	26.1	27.6	27.5
		投薬・注射	20.1	19.9	18.9	19.6	19.2	23.9	25.5	25.3
		投薬	14.9	14.7	13.6	13.9	13.7	19.3	20.6	20.7
		注射	5.2	5.2	5.3	5.7	5.4	4.6	4.9	4.6
		その他の薬剤料	2.8	2.6	2.7	2.6	2.5	2.2	2.1	2.2
	入 院									
		薬剤料	12.1	11.8	12.0	12.0	11.3	12.0	12.0	11.3
		投薬・注射	9.7	9.4	9.7	9.8	9.4	9.7	9.8	9.4
		投薬	2.5	2.5	2.6	2.6	2.5	2.6	2.6	2.5
		注射	7.2	7.0	7.1	7.1	6.9	7.1	7.1	6.9
		その他の薬剤料	2.4	2.4	2.3	2.2	2.0	2.3	2.2	2.0
	入 院 外									
		薬剤料	34.1	34.0	33.4	34.5	33.2	35.0	36.6	35.8
		投薬・注射	31.0	31.0	30.2	31.5	30.2	32.8	34.6	33.5
		投薬	28.0	27.7	27.1	27.4	26.4	29.7	30.9	30.1
	注射	3.0	3.3	3.1	4.1	3.8	3.1	3.7	3.4	
	その他の薬剤料	3.1	2.9	3.2	3.0	3.0	2.2	2.0	2.3	
歯 科	薬剤料	1.0	1.0	0.9	1.0	1.0	1.1	1.2	1.2	
薬 局 調 剤	薬剤料		67.5	67.8	70.0	70.9				

- 注:1) 「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除外してある。ただし、「薬局調剤分(調剤報酬明細書分)を含めた場合」は「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書のみ除外してある。
- 2) 「薬局調剤分(調剤報酬明細書分)を含めた場合」では、薬局調剤分の総点数、薬剤料を医科、歯科にそれぞれ合算している。
- 3) 「薬剤料」とは、総点数に占める「投薬」「注射」及びその他の診療行為の中の薬剤点数の割合である。ただし、「薬局調剤分(調剤報酬明細書分)を含めた場合」では、薬局調剤分の内服薬及び外用薬を「投薬」に、注射薬を「注射」に合算している。
- 4) 「その他の薬剤料」とは、総点数に占める、「在宅医療」「検査」「画像診断」「リハビリテーション」「精神科専門療法」「処置」「手術」及び「麻酔」の中で使用された薬剤点数の割合である。
- 5) 入院時食事療養は、費用額算定を点数換算(入院時食事療養÷10)して総点数に含めている。
- 6) 薬局調剤分(調剤報酬明細書分)に係る調査は平成13年から実施している。

〔医科診療〕

2 入院外の投薬における薬剤点数の状況

薬剤点数別件数の構成割合は、「500点未満」が一般医療74.2%、老人医療53.5%と、最も多くなっている。「500～1000点未満」は一般医療15.7%、老人医療24.3%、「1000点以上」はそれぞれ10.2%、22.1%となっている。

後発医薬品の出現した明細書の割合は、一般医療 44.7%、老人医療 55.3%となっており、一般医療に比べ老人医療の割合が高くなっている。(表14、図11)

表14 一般医療 - 老人医療 - 年齢階級別にみた薬剤点数階級別件数の構成割合 (入院外・投薬)

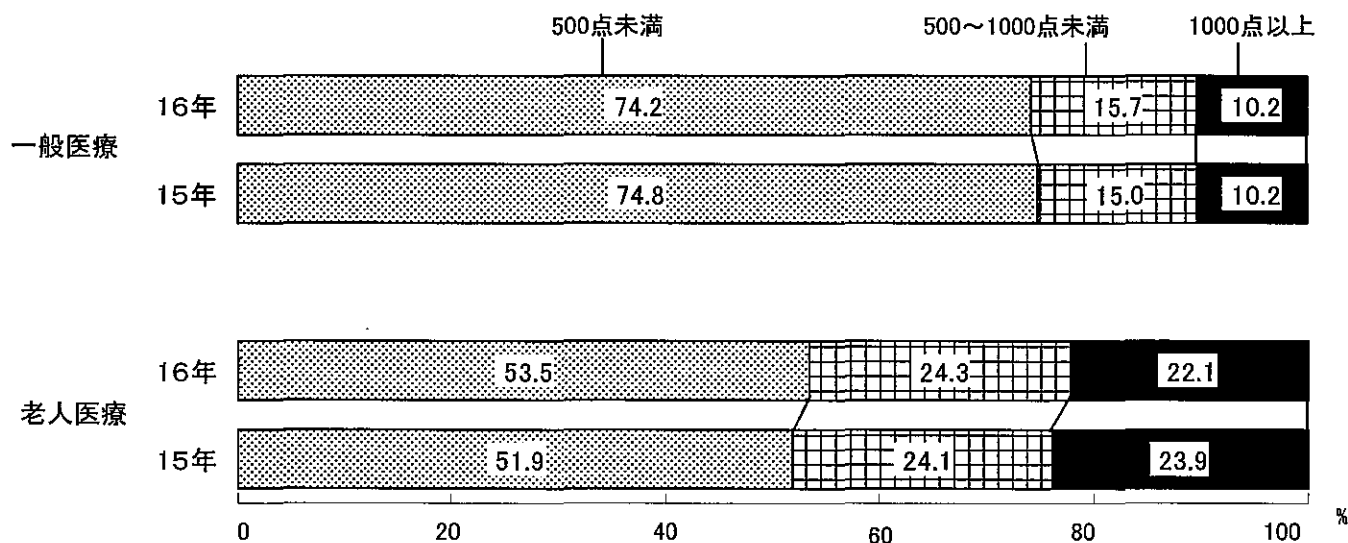
(単位:%) (平成16年6月審査分)

	総数	500点未満						500～1000	1000～1500	1500～2000	2000点以上	総件数に占める後発医薬品が出現した明細書の割合(再掲)	
		総数	100点未満	100～200未満	200～300	300～400	400～500						
総数	100.0 (100.0)	68.0 (67.7)	25.0 (24.3)	16.8 (17.3)	12.0 (12.1)	7.7 (8.0)	6.6 (6.1)	18.2 (17.8)	7.0 (7.4)	2.9 (3.2)	3.9 (3.9)	47.8 (46.4)	
一般医療	100.0 (100.0)	74.2 (74.8)	28.8 (28.1)	18.9 (20.0)	12.7 (13.2)	7.3 (7.8)	6.4 (5.6)	15.7 (15.0)	5.4 (5.4)	2.0 (2.2)	2.9 (2.6)	44.7 (43.3)	
老人医療	100.0 (100.0)	53.5 (51.9)	16.0 (15.8)	11.6 (11.2)	10.2 (9.4)	8.6 (8.3)	7.1 (7.2)	24.3 (24.1)	10.8 (11.8)	5.1 (5.4)	6.2 (6.7)	55.3 (53.2)	
年齢階級	0～14歳	100.0	94.0	51.8	23.3	10.7	4.7	3.4	4.7	0.9	0.1	0.3	49.7
	15～39歳	100.0	86.0	36.4	24.9	12.7	7.1	5.0	9.2	2.2	1.1	1.6	43.8
	40～69歳	100.0	66.4	21.4	16.2	13.3	8.0	7.5	19.9	7.1	2.6	4.0	43.4
	70～79歳	100.0	55.2	16.5	12.0	10.6	8.6	7.4	24.3	10.3	4.6	5.7	53.6
	80歳以上	100.0	51.9	16.0	11.2	9.6	8.0	7.1	24.4	11.9	5.6	6.2	57.3

注:1) 「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。  
 2) 「総数」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。  
 3) ( )内は平成15年6月審査分

図11 一般医療 - 老人医療別にみた薬剤点数別件数の構成割合 (入院外・投薬)

(各年6月審査分)



### 3 入院外の投薬における薬価階級別薬剤点数の状況

薬価階級別薬剤点数の構成割合は、「250円未満」が一般医療80.9%、老人医療83.7%と、最も多くなっている。「250～500円未満」は一般医療6.6%、老人医療5.4%、「500円以上」はそれぞれ9.0%、7.4%となっている。

後発医薬品の点数の割合は、一般医療 7.6%、老人医療 8.1%となっており、一般医療に比べ老人医療の割合が高くなっている。(表15、図12)

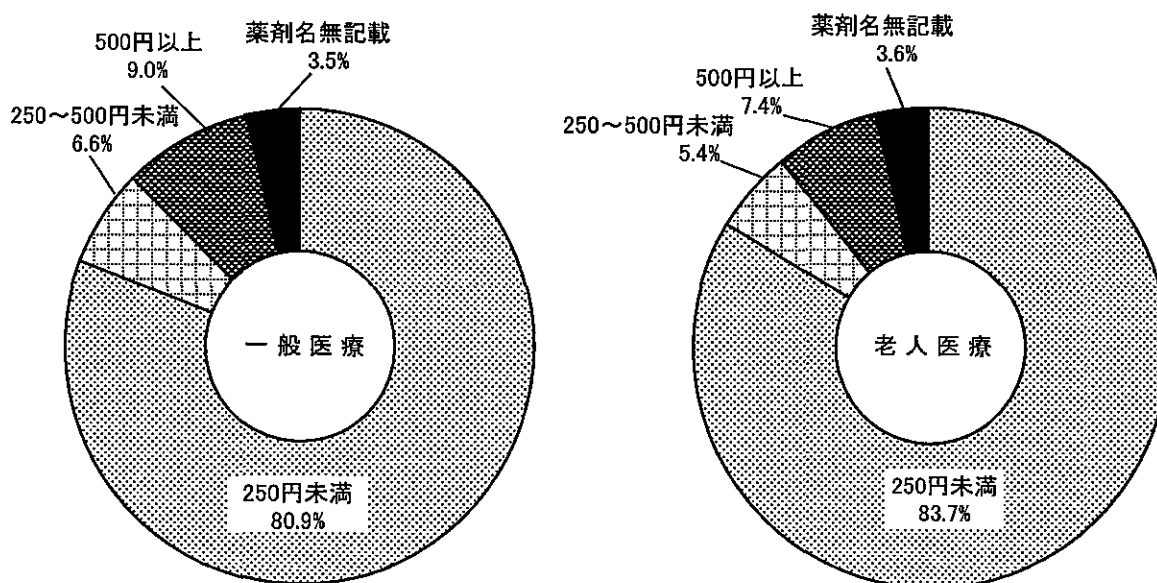
表15 一般医療 - 老人医療 - 年齢階級別にみた薬価階級別薬剤点数の構成割合 (入院外・投薬)

		総数	250円未満					250～500	500円以上	薬剤名無記載	薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合(再掲)	
			総数	50円未満	50～100未満	100～150	150～200					200～250
総数		100.0 (100.0)	82.0 (83.5)	31.4 (32.7)	24.3 (23.5)	10.4 (9.6)	10.5 (12.0)	5.4 (5.7)	6.1 (5.5)	8.3 (7.6)	3.5 (3.4)	7.8 (8.0)
一般医療		100.0 (100.0)	80.9 (82.3)	29.9 (30.8)	24.6 (23.9)	10.6 (9.5)	10.4 (12.6)	5.3 (5.6)	6.6 (6.5)	9.0 (8.0)	3.5 (3.2)	7.6 (7.6)
老人医療		100.0 (100.0)	83.7 (85.0)	33.4 (35.2)	23.8 (23.0)	10.1 (9.9)	10.6 (11.2)	5.7 (5.8)	5.4 (4.2)	7.4 (7.0)	3.6 (3.7)	8.1 (8.6)
年齢階級	0～14歳	100.0	75.9	27.0	21.5	18.4	7.8	1.1	16.7	4.9	2.5	9.0
	15～39歳	100.0	79.0	32.9	21.1	12.0	6.5	6.4	6.6	12.1	2.4	8.4
	40～69歳	100.0	81.3	29.5	25.6	10.0	11.1	5.1	5.9	9.1	3.7	7.2
	70～79歳	100.0	83.9	32.5	24.5	9.8	11.2	5.9	5.0	7.4	3.7	7.9
	80歳以上	100.0	83.4	34.6	22.6	10.1	10.3	5.7	6.8	6.3	3.5	8.5

- 注:1) 「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。  
 2) 「総数」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。  
 3) ( )内は平成15年6月審査分

図12 一般医療 - 老人医療別にみた薬価階級別薬剤点数の構成割合 (入院外・投薬)

(平成16年6月審査分)



#### 4 入院外の投薬における薬剤種類数の状況

薬剤種類数別件数の構成割合は、一般医療、老人医療とも「1～2種類」が最も多く、それぞれ 46.3%、35.0%となっている。次いで一般医療では「3～4種類」、「5～6種類」、「7種類以上」の順となっており、老人医療では「3～4種類」、「7種類以上」、「5～6種類」の順となっている。

1件当たり薬剤種類数をみると、一般医療3.29、老人医療4.27となっている。(表16、図13)

表16 一般医療 - 老人医療 - 年齢階級別にみた薬剤種類数別件数の構成割合、1件当たり薬剤種類数 (入院外・投薬)

(単位:%)		(平成16年6月審査分)											1件当たり薬剤種類数	
		総数	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類以上		1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数(再掲)
総数		100.0 (100.0)	22.3 (22.1)	20.7 (21.2)	16.8 (16.8)	12.5 (12.6)	9.1 (8.8)	6.1 (6.2)	4.1 (4.2)	3.0 (2.7)	1.9 (1.8)	3.6 (3.6)	3.58 (3.57)	0.80 (0.77)
一般医療		100.0 (100.0)	24.6 (24.6)	21.7 (22.0)	17.4 (17.4)	12.7 (12.6)	8.7 (8.5)	5.4 (5.6)	3.3 (3.4)	2.3 (2.1)	1.4 (1.4)	2.4 (2.4)	3.29 (3.29)	0.71 (0.69)
老人医療		100.0 (100.0)	16.6 (16.6)	18.4 (19.2)	15.2 (15.6)	12.0 (12.5)	10.0 (9.5)	7.8 (7.6)	6.0 (5.9)	4.6 (3.9)	3.1 (2.8)	6.2 (6.4)	4.27 (4.20)	0.99 (0.96)
年齢階級	0～14歳	100.0	23.4	19.5	16.6	14.0	10.0	6.9	3.7	2.6	1.4	1.9	3.39	0.74
	15～39歳	100.0	24.9	21.9	17.8	13.4	8.8	4.9	2.9	2.3	1.1	2.0	3.21	0.69
	40～69歳	100.0	25.1	22.3	17.2	12.2	8.3	5.1	3.3	2.1	1.6	2.9	3.30	0.71
	70～79歳	100.0	18.1	19.4	16.2	12.2	9.7	7.6	5.3	4.0	2.7	4.8	4.00	0.92
	80歳以上	100.0	15.1	16.8	14.9	11.5	10.4	8.0	6.8	5.4	3.7	7.4	4.53	1.09

注:1) 「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。

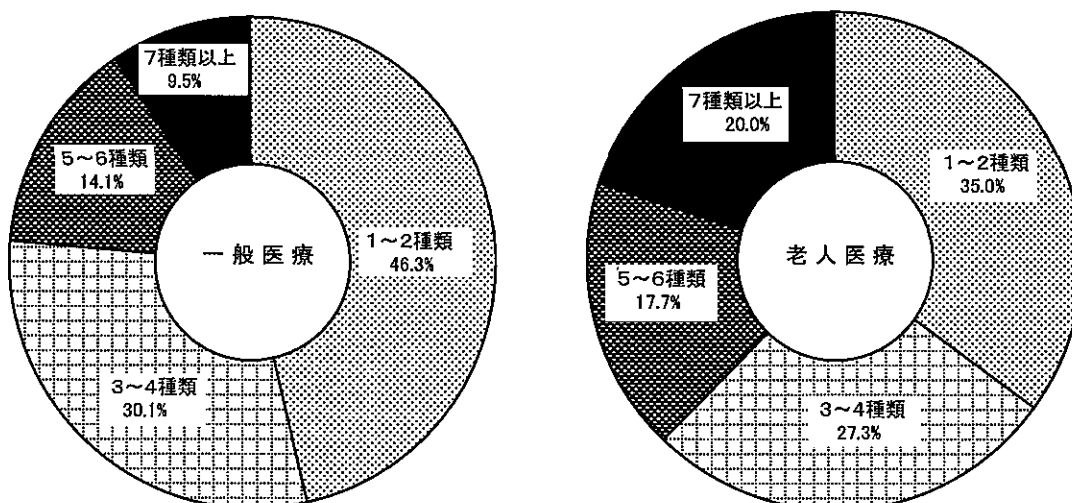
2) 薬剤名無記載は、1種類としている。

3) 「総数」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。

4) ( )内は平成15年6月審査分

図13 一般医療 - 老人医療別にみた薬剤種類数別件数の構成割合 (入院外・投薬)

(平成16年6月審査分)



## 5 薬効分類別にみた薬剤使用の状況（入院・入院外）

一般医療、老人医療別にみた薬効分類別薬剤点数の構成割合は、入院では一般医療、老人医療とも「抗生物質製剤」が最も多く、それぞれ 12.9%、18.5%、入院外では一般医療、老人医療とも「循環器用薬」が最も多く、それぞれ 21.1%、27.4%となっている。（表17）

入院で「抗生物質製剤」を年齢階級別にみると、「70～79歳」が28.5%、「80歳以上」が32.2%となっている。入院外で「循環器用薬」を年齢階級別にみると、「40～69歳」が48.5%、「70～79歳」が33.7%となっている。（表18）

表17 一般医療 - 老人医療別にみた薬効分類別薬剤点数の構成割合

	入 院				入 院 外			
	総 数	一般医療	老人医療	後発医薬品 (再掲)	総 数	一般医療	老人医療	後発医薬品 (再掲)
総 数	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0
中枢神経系用薬	9.7 (8.0)	11.5 (9.0)	7.9 (7.1)	5.3	8.0 (7.2)	8.6 (7.4)	7.2 (6.9)	7.0
感覚器用薬	1.7 (1.8)	1.2 (1.2)	2.1 (2.4)	9.1	3.1 (3.0)	2.7 (2.6)	3.7 (3.6)	6.2
循環器用薬	8.3 (7.9)	6.0 (5.6)	10.7 (10.1)	10.4	23.6 (23.7)	21.1 (21.0)	27.4 (27.4)	22.9
呼吸器用薬	0.9 (1.0)	0.7 (0.9)	1.0 (1.0)	0.7	2.3 (2.5)	2.7 (2.9)	1.6 (1.9)	3.5
消化器用薬	4.9 (5.0)	5.5 (5.6)	4.3 (4.4)	5.6	8.1 (8.2)	7.4 (7.4)	9.2 (9.3)	12.6
ホルモン剤	1.4 (1.8)	1.6 (1.8)	1.3 (1.7)	1.5	4.6 (5.3)	5.1 (5.9)	4.0 (4.5)	2.5
外用薬	1.1 (1.1)	0.9 (0.9)	1.4 (1.4)	2.0	4.2 (4.0)	3.8 (3.6)	4.8 (4.5)	6.3
滋養強壮薬	6.1 (6.0)	4.3 (4.7)	7.9 (7.1)	2.9	1.4 (0.8)	1.4 (0.7)	1.3 (1.0)	0.8
血液・体液用薬	8.4 (8.7)	8.1 (8.9)	8.7 (8.4)	22.7	3.7 (3.6)	2.9 (2.8)	5.0 (4.7)	6.0
その他の代謝性医薬品	7.6 (6.9)	6.8 (6.5)	8.5 (7.4)	8.7	9.6 (10.4)	8.3 (9.7)	11.6 (11.4)	6.0
腫瘍用薬	6.8 (7.7)	10.6 (11.5)	3.1 (4.2)	0.3	5.3 (4.3)	5.4 (4.8)	5.0 (3.6)	0.6
アレルギー用薬	0.4 (0.4)	0.3 (0.4)	0.4 (0.4)	0.2	3.7 (4.0)	4.5 (4.9)	2.3 (2.7)	5.5
抗生物質製剤	15.7 (15.9)	12.9 (13.4)	18.5 (18.3)	14.8	3.0 (3.7)	4.2 (5.3)	1.1 (1.4)	1.8
化学療法剤	3.1 (3.4)	3.1 (3.1)	3.1 (3.8)	3.5	2.9 (3.4)	3.8 (4.5)	1.5 (1.8)	2.5
生物学的製剤	10.2 (9.1)	11.1 (9.8)	9.2 (8.4)	-	2.9 (2.5)	4.5 (4.1)	0.4 (0.4)	-
その他の薬効	13.5 (15.2)	15.3 (16.7)	11.8 (13.9)	12.4	10.8 (10.8)	10.8 (10.0)	10.9 (11.8)	15.7

注: 1) 薬剤の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCIに係る明細書は除く。)を集計の対象としている。  
 2) 「総数」には、薬剤名無記載を含む。  
 3) ( )内は平成15年6月審査分  
 4) 「血液・体液用薬」は、生理食塩液等を指す。  
 5) 「生物学的製剤」は、血液製剤等を指す。  
 6) 「その他の薬効」には、上記分類以外の「ビタミン剤」、「泌尿生殖器官及び肛門用薬」等の分類を含んでいる。

表18 主な薬効分類別にみた年齢階級別薬剤点数の構成割合

	入 院							入 院 外								
	総 数	年 齢 階 級						後発医薬品 (再掲)	総 数	年 齢 階 級						後発医薬品 (再掲)
		0～14歳	15～39歳	40～69歳	70～79歳	80歳以上	0～14歳			15～39歳	40～69歳	70～79歳	80歳以上			
中枢神経系用薬	100.0	1.0	12.3	43.6	25.8	17.3	3.2	100.0	1.1	19.0	41.7	23.3	14.9	6.3		
感覚器用薬	100.0	0.5	1.8	27.1	43.8	26.8	32.5	100.0	5.3	9.3	34.7	32.1	18.6	14.7		
循環器用薬	100.0	0.4	2.1	31.2	34.3	32.1	7.4	100.0	0.0	1.5	48.5	33.7	16.4	7.0		
呼吸器用薬	100.0	10.6	5.4	24.5	31.0	28.5	4.8	100.0	19.3	15.8	34.4	20.7	9.8	11.2		
消化器用薬	100.0	0.9	7.9	45.6	26.3	19.3	6.7	100.0	0.8	7.2	43.8	32.6	15.6	11.2		
ホルモン剤	100.0	2.1	11.4	38.5	29.8	18.3	6.0	100.0	19.8	13.7	29.6	24.0	12.9	4.0		
外用薬	100.0	1.5	5.3	32.2	26.0	34.9	10.2	100.0	3.6	11.4	35.4	33.6	16.0	11.0		
滋養強壮薬	100.0	0.8	4.5	27.6	31.5	35.6	2.8	100.0	3.2	13.3	45.2	22.4	16.0	4.3		
血液・体液用薬	100.0	2.6	6.3	37.6	29.0	24.6	15.9	100.0	3.2	4.0	37.8	35.3	19.7	11.7		
その他の代謝性医薬品	100.0	0.3	2.9	41.8	31.4	23.6	6.7	100.0	1.0	3.9	48.1	31.5	15.5	4.6		
腫瘍用薬	100.0	0.4	3.5	66.6	24.7	4.8	0.3	100.0	0.2	2.0	59.6	31.6	6.7	0.8		
アレルギー用薬	100.0	5.2	10.1	30.2	28.6	25.9	2.4	100.0	11.0	22.6	38.9	18.6	8.8	10.9		
抗生物質製剤	100.0	3.9	8.3	27.1	28.5	32.2	5.5	100.0	27.3	26.3	29.6	11.7	5.2	4.3		
化学療法剤	100.0	1.5	10.3	36.1	26.9	25.1	6.7	100.0	2.7	28.3	44.9	16.9	7.2	6.3		
生物学的製剤	100.0	4.0	9.3	38.3	26.1	22.3	-	100.0	8.3	5.9	78.4	6.4	0.9	-		

注: 1) 薬剤の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCIに係る明細書は除く。)を集計の対象としている。  
 2) 「総数」には、年齢不詳を含む。  
 3) 「血液・体液用薬」は、生理食塩液等を指す。  
 4) 「生物学的製剤」は、血液製剤等を指す。



〔薬局調剤〕

6 薬剤点数の状況

薬剤点数別件数の構成割合は、「500点未満」が一般医療68.3%、老人医療45.0%と、最も多くなっている。「500～1000点未満」は一般医療16.7%、老人医療23.2%、「1000点以上」はそれぞれ15.0%、31.9%となっている。

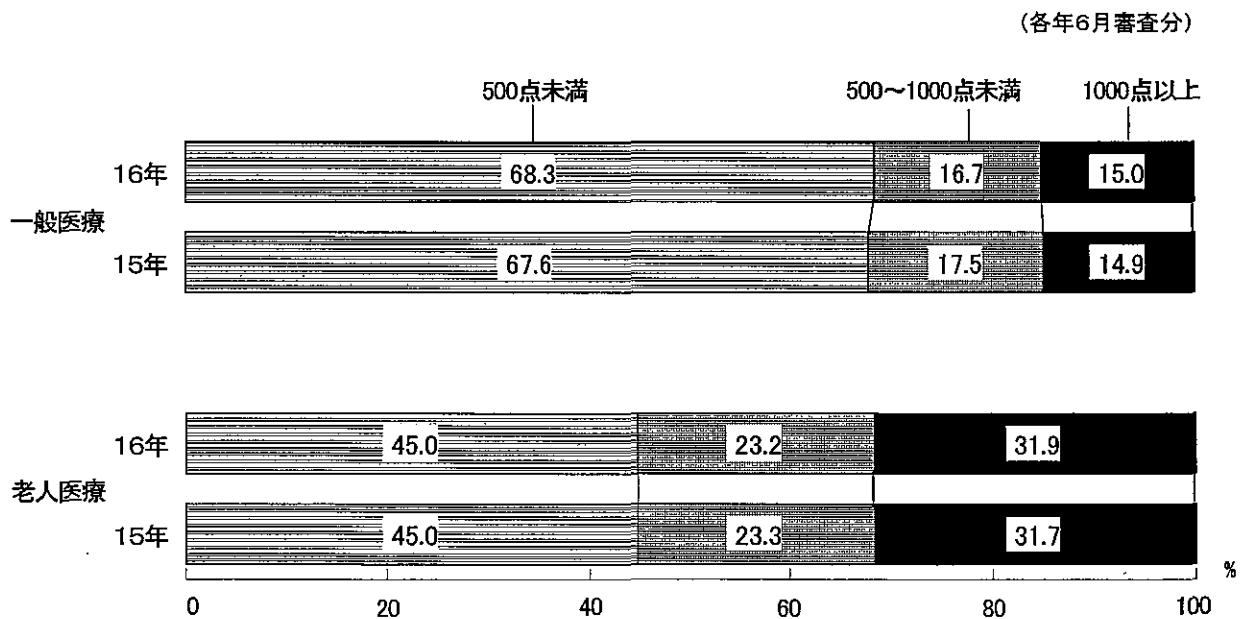
後発医薬品の出現した明細書の割合は、一般医療35.6%、老人医療47.9%となっており、一般医療に比べ老人医療の割合が高くなっている。(表19、図14)

表19 一般医療 - 老人医療 - 年齢階級別にみた薬剤点数階級別件数の構成割合 (薬局調剤)

総数		500点未満							500～1000	1000～1500	1500～2000	2000点以上	総件数に占める後発医薬品が出現した明細書の割合(再掲)
		総数	100点未満	100～200未満	200～300	300～400	400～500						
総数	100.0 (100.0)	61.6 (60.7)	20.6 (19.8)	15.6 (15.7)	11.3 (11.3)	7.7 (7.8)	6.4 (6.1)	18.6 (19.3)	8.8 (9.0)	4.6 (4.6)	6.4 (6.4)	39.1 (40.0)	
一般医療	100.0 (100.0)	68.3 (67.6)	23.5 (22.4)	18.0 (18.3)	12.4 (12.7)	7.9 (8.1)	6.5 (6.1)	16.7 (17.5)	6.9 (7.1)	3.5 (3.3)	4.6 (4.4)	35.6 (36.7)	
老人医療	100.0 (100.0)	45.0 (45.0)	13.5 (13.7)	9.6 (9.8)	8.6 (8.2)	7.0 (7.1)	6.3 (6.1)	23.2 (23.3)	13.4 (13.4)	7.6 (7.5)	11.0 (10.9)	47.9 (47.3)	
年齢階級	0～14歳	100.0	89.0	40.3	24.0	12.6	7.3	4.7	8.0	1.9	0.7	0.5	44.4
	15～39歳	100.0	78.4	27.0	23.0	13.6	8.7	6.1	13.1	4.4	1.8	2.3	31.6
	40～69歳	100.0	57.7	16.4	14.3	11.8	7.9	7.3	21.0	9.4	4.9	6.9	33.5
	70～79歳	100.0	46.8	13.9	10.0	9.3	7.1	6.5	22.8	13.0	7.1	10.3	45.4
	80歳以上	100.0	43.8	13.1	9.5	8.2	6.9	6.2	23.8	13.5	7.9	11.0	51.0

注: 1) 「総数」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。  
2) ( )内は平成15年6月審査分

図14 一般医療 - 老人医療別にみた薬剤点数別件数の構成割合 (薬局調剤)



## 7 薬価階級別薬剤点数の状況

薬価階級別薬剤点数の構成割合は、「250円未満」が一般医療79.4%、老人医療83.6%と、最も多くなっている。「250～500円未満」は一般医療8.5%、老人医療7.4%、「500円以上」はそれぞれ12.1%、9.0%となっている。

後発医薬品の点数の割合は、一般医療4.2%、老人医療5.1%となっており、一般医療に比べ老人医療の割合が高くなっている。(表20、図15)

表20 一般医療 - 老人医療 - 年齢階級別にみた薬価階級別薬剤点数の構成割合 (薬局調剤)

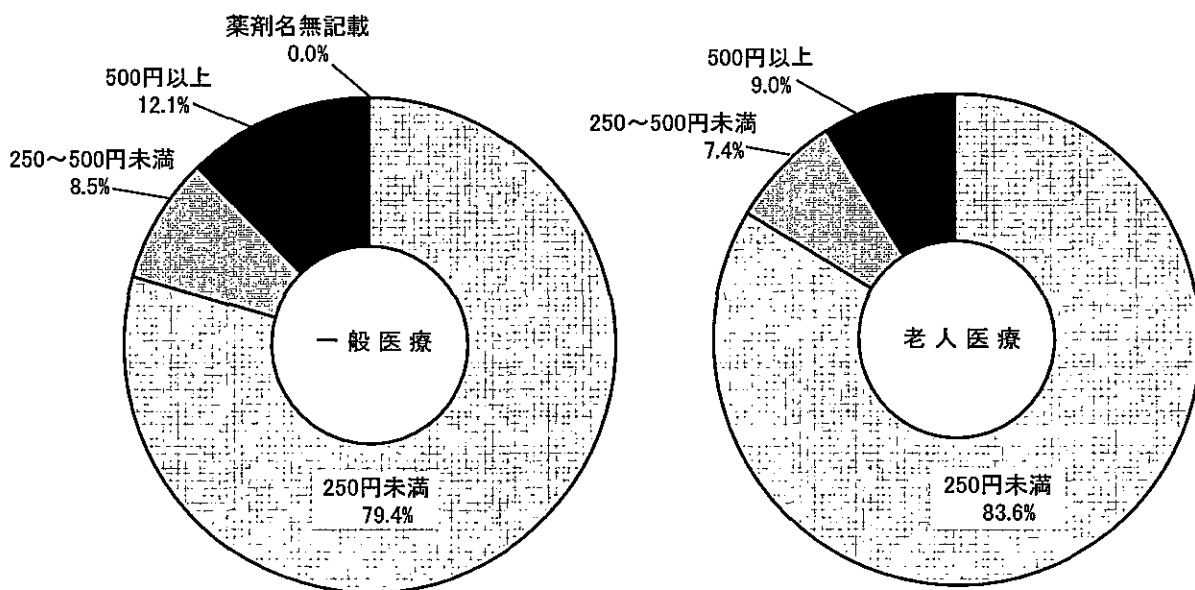
		総数	250円未満					250～500	500円以上	薬剤名無記載	薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合(再掲)	
			総数	50円未満	50～100円未満	100～150	150～200					200～250
総数		100.0 (100.0)	81.1 (82.5)	30.1 (31.5)	24.2 (23.3)	11.0 (10.4)	10.4 (11.5)	5.4 (5.8)	8.0 (7.0)	10.9 (10.4)	0.0 (0.1)	4.5 (4.9)
一般医療		100.0 (100.0)	79.4 (79.9)	28.6 (29.3)	24.3 (23.0)	11.0 (10.0)	10.3 (11.9)	5.2 (5.7)	8.5 (8.3)	12.1 (11.7)	0.0 (0.1)	4.2 (4.6)
老人医療		100.0 (100.0)	83.6 (86.1)	32.3 (34.6)	24.0 (23.7)	11.1 (10.8)	10.5 (11.0)	5.7 (6.0)	7.4 (5.2)	9.0 (8.7)	- (0.1)	5.1 (5.3)
年齢階級	0～14歳	100.0	74.1	24.5	23.1	19.9	6.1	0.6	16.1	9.7	-	6.2
	15～39歳	100.0	76.6	31.7	21.9	11.0	6.1	5.8	8.6	14.8	0.0	3.9
	40～69歳	100.0	79.9	28.2	24.9	9.8	11.5	5.5	7.7	12.4	0.0	4.0
	70～79歳	100.0	84.0	31.3	24.5	11.1	11.3	5.8	7.2	8.8	-	4.8
	80歳以上	100.0	84.3	34.3	23.3	11.4	9.7	5.6	7.3	8.4	-	5.5

注:1) 「総数」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。

2) ( )内は平成15年6月審査分

図15 一般医療 - 老人医療別にみた薬価階級別薬剤点数の構成割合 (薬局調剤)

(平成16年6月審査分)



## 8 薬剤種類数の状況

薬剤種類数別件数の構成割合は、一般医療、老人医療とも「1～2種類」が最も多く、それぞれ42.0%、32.9%となっている。次いで一般医療では「3～4種類」、「5～6種類」、「7種類以上」の順となっており、老人医療では「3～4種類」、「7種類以上」、「5～6種類」の順となっている。

1件当たり薬剤種類数をみると、一般医療3.56、老人医療4.59となっている。(表21、図16)

表21 一般医療 - 老人医療 - 年齢階級別にみた薬剤種類数別件数の構成割合、1件当たり薬剤種類数 (薬局調剤)

(単位:%)		(平成16年6月審査分)											(平成16年6月審査分)	
		総数	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類以上	1件当たり薬剤種類数	1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数(再掲)
総数		100.0 (100.0)	19.4 (19.3)	20.1 (19.7)	16.5 (16.4)	12.6 (13.2)	9.4 (9.4)	6.8 (6.8)	4.9 (4.8)	3.3 (3.5)	2.2 (2.2)	4.8 (4.7)	3.86 (3.87)	0.57 (0.59)
一般医療		100.0 (100.0)	20.8 (20.9)	21.2 (20.6)	17.5 (17.2)	13.1 (13.8)	9.3 (9.3)	6.3 (6.3)	4.3 (4.2)	2.7 (2.9)	1.6 (1.7)	3.2 (3.1)	3.56 (3.57)	0.51 (0.52)
老人医療		100.0 (100.0)	15.6 (15.6)	17.3 (17.6)	14.0 (14.5)	11.5 (11.7)	9.7 (9.5)	7.9 (8.0)	6.4 (6.3)	4.9 (4.9)	3.7 (3.5)	8.8 (8.4)	4.59 (4.53)	0.75 (0.73)
年齢階級	0～14歳	100.0	16.8	16.6	15.4	13.7	12.3	9.0	6.7	3.8	2.1	3.5	4.03	0.66
	15～39歳	100.0	21.9	22.2	18.9	14.0	9.1	5.4	3.1	2.1	1.4	2.0	3.31	0.45
	40～69歳	100.0	22.0	22.5	17.8	12.5	8.2	5.6	4.0	2.5	1.5	3.5	3.49	0.47
	70～79歳	100.0	17.0	18.6	15.0	11.7	9.6	7.7	5.8	4.2	3.2	7.3	4.31	0.68
	80歳以上	100.0	14.2	16.0	12.8	11.6	9.8	8.3	7.2	5.8	4.2	10.1	4.85	0.83

注: 1) 薬剤名無記載は、1種類としている。  
 2) 「総数」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。  
 3) ( )内は平成15年6月審査分

図16 一般医療 - 老人医療別にみた薬剤種類数別件数の構成割合 (薬局調剤)  
(平成16年6月審査分)

